

熊野町の公共交通に関するアンケート調査 調査結果

■ 調査時期：令和4年6～7月

■ 調査方法・回答数

・世帯配布（無作為抽出で郵送配布・郵送回収）

－配布世帯数：2,500世帯（各世帯1枚ずつ） ※全世帯数8,833世帯の28%に配布

－回答数：1,152票（回答率46%）

・公共交通利用者への配布（車内留め置き、直接配布）

－回答数：185票（路線バス134票、タクシー28票、おでかけ号23票）

（R2 国勢調査人口22,834人⇒人口ベースで6%回答）

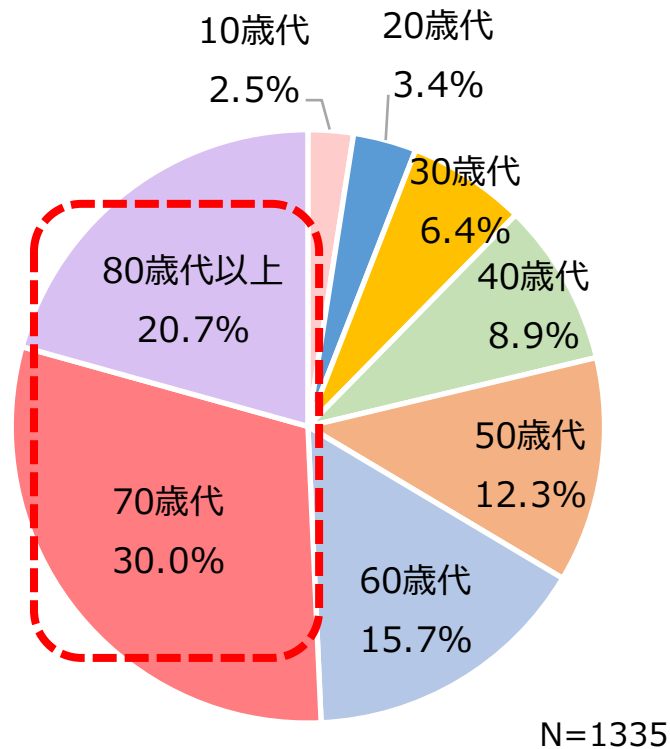
1. 回答者の属性

1) 年齢、居住地

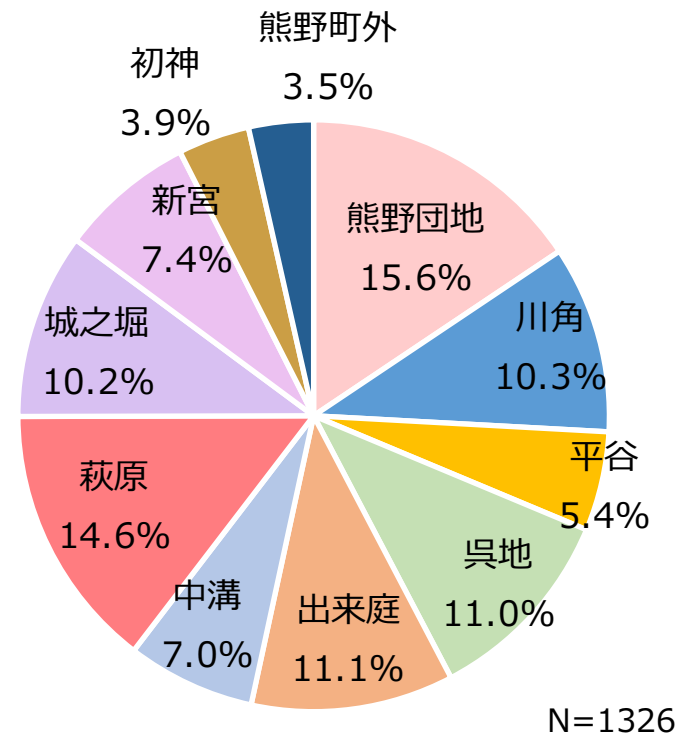
年齢構成：実人口構成に比べ40歳代以下の若年層の回答が少なく、70歳代以上の回答が多く得られた。

居住地：概ね実際の居住地構成と同様の割合になっている。

▼年齢構成



▼居住地



1. 回答者の属性

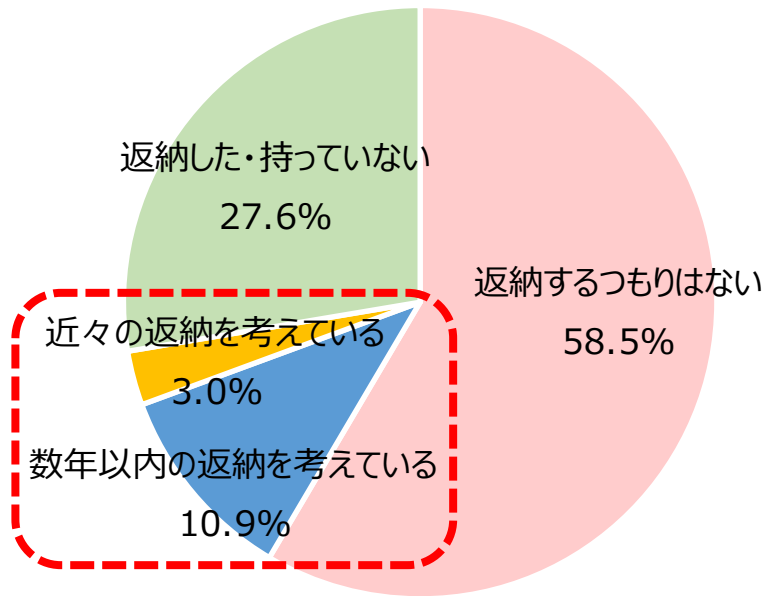
2) 免許返納意向、移動環境

免許返納の意向：回答者のうち1割を超える人が免許返納を考えている。

運転状況：回答者のうち35%が非運転者である。

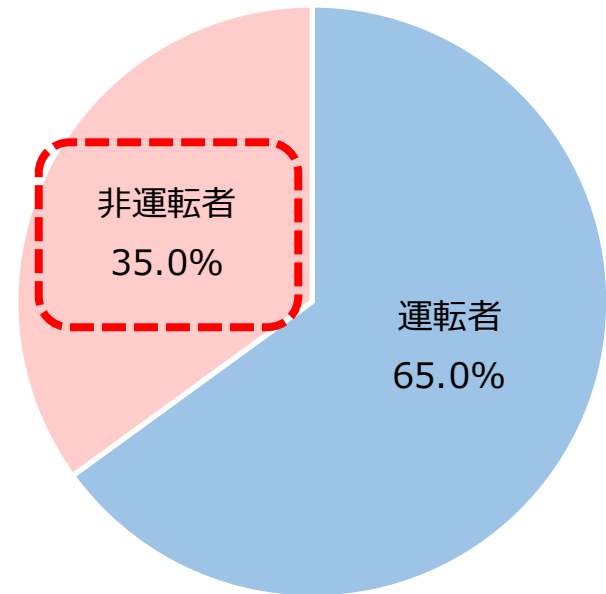
※非運転者：普段からよく運転しない、「ペーパードライバー」「もともと免許を持っていない」「免許を返納した」人。

▼免許返納の意向



N=1313

▼運転状況



N=1337

2. 日常の外出状況

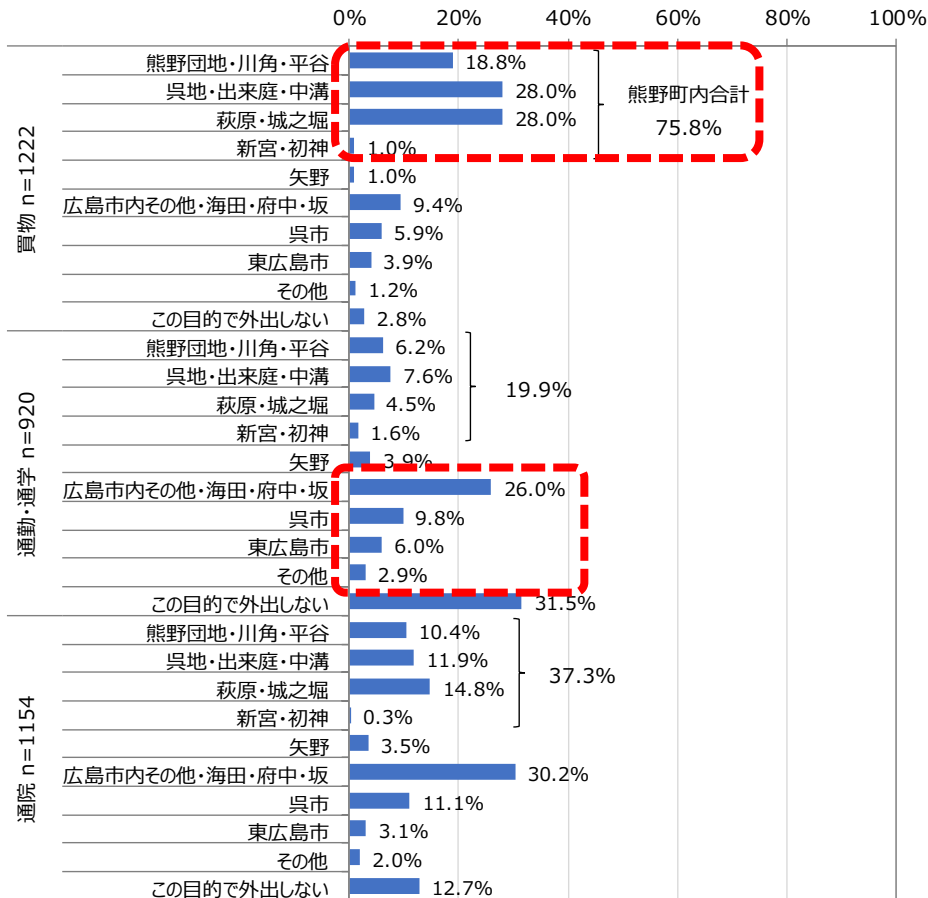
2) 外出の移動先（買物、通勤・通学、通院）

買物：全回答者の約8割は、日常的な買い物で町内の施設を利用している。

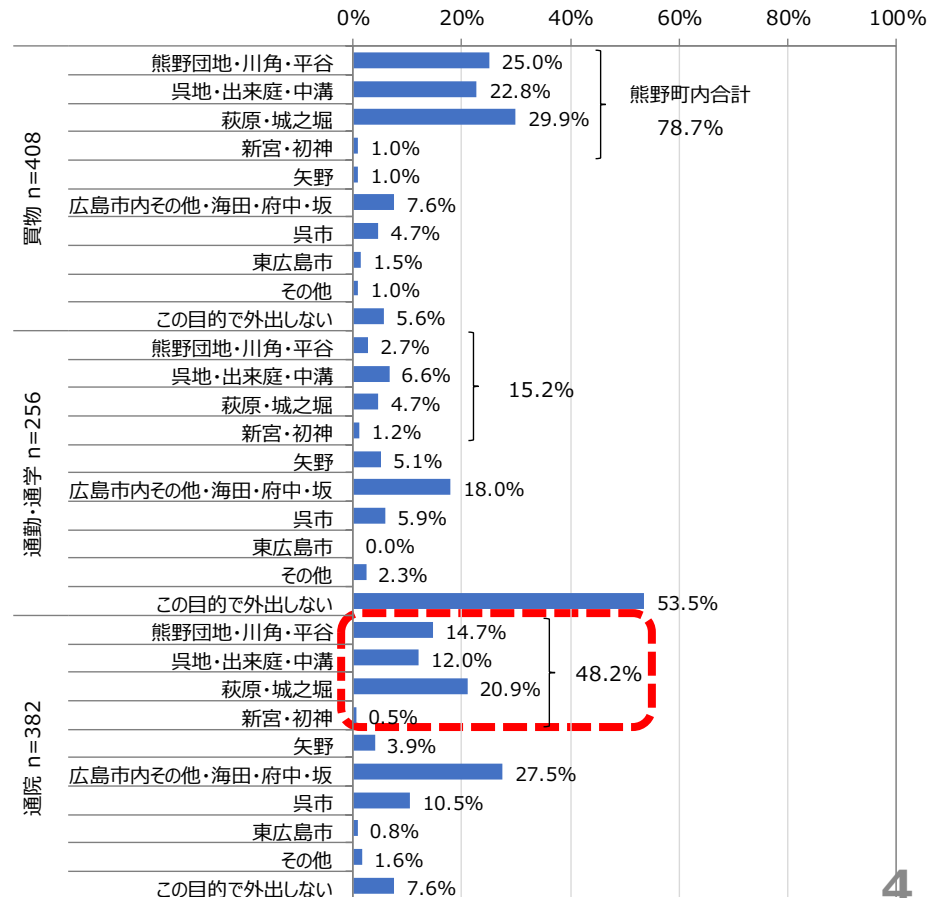
通勤・通学：広島方面を中心に、呉、東広島など、約5割が市街に通勤・通学している。

通院：町内と市街に二分され、非運転者は町内を通院先とする割合が多い。

▼外出目的別の移動先（全回答者）



▼外出目的別の移動先（非運転者）



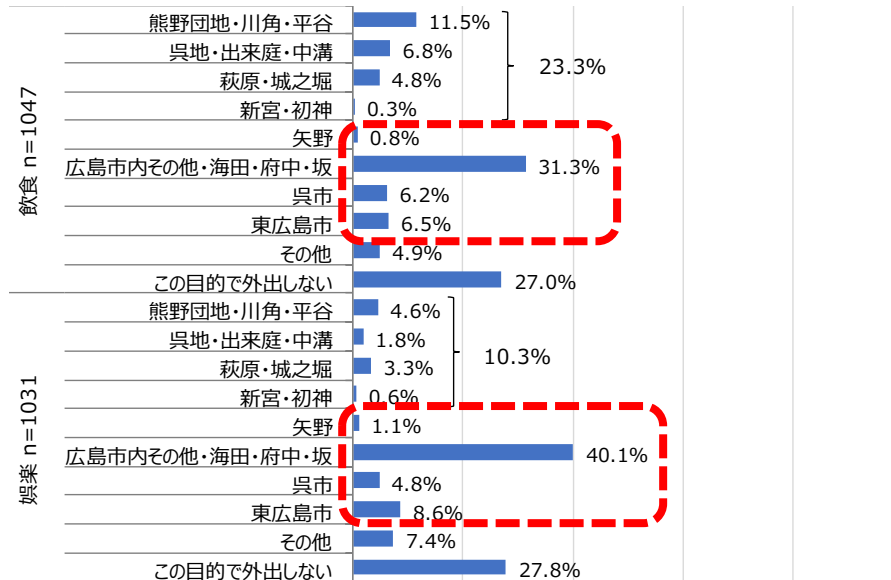
2. 日常の外出状況

1) 外出の移動先（飲食、娯楽）

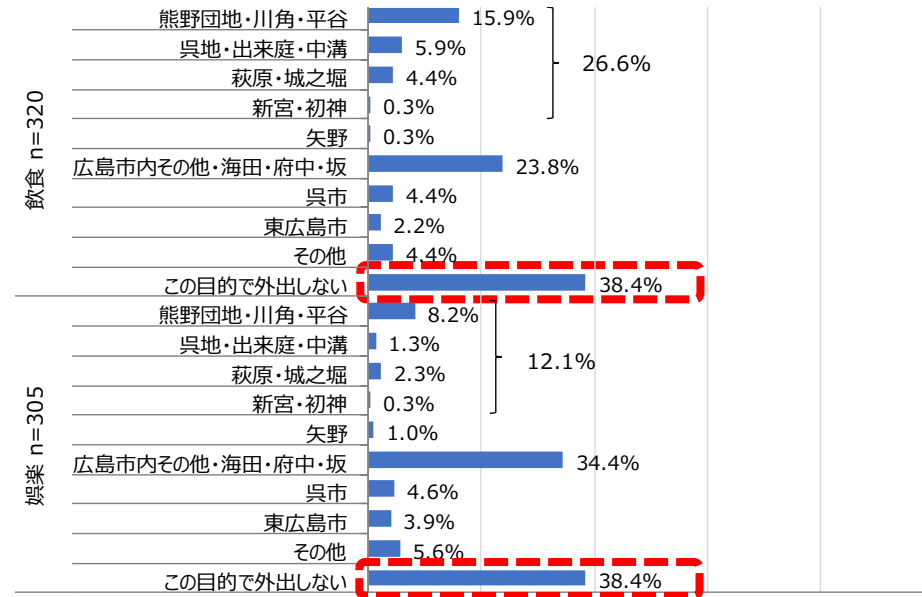
飲食：広島方面を中心に、呉、東広島など、**約5割が飲食で市街**に出ており、非運転者は外出しない人の割合が増える。

娯楽：広島方面を中心に、呉、東広島など、**約7割が飲食で市街**に出ており、非運転者は外出しない人の割合が増える。

▼外出目的別の移動先（全回答者）



▼外出目的別の移動先（非運転者）



2. 日常の外出状況

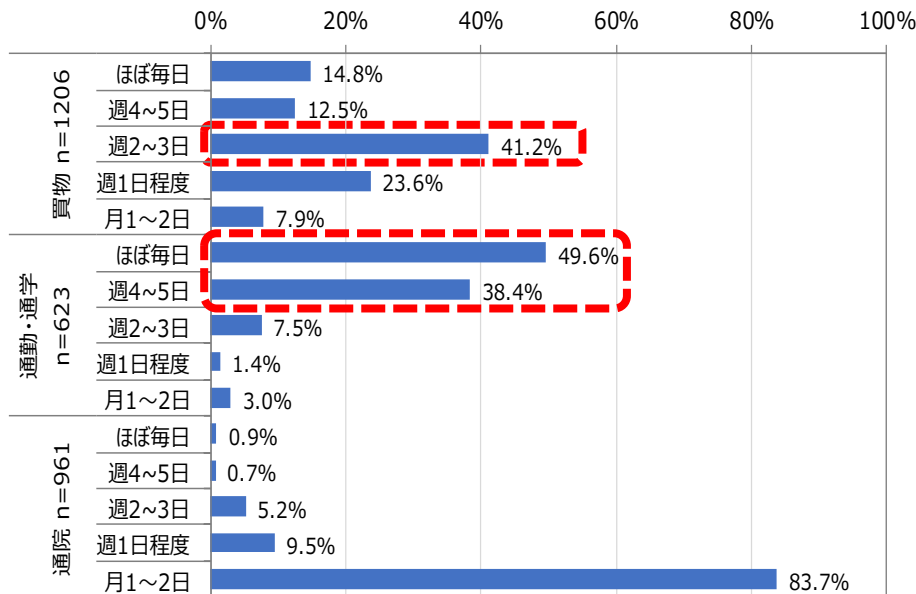
2) 外出の頻度（買物、通勤・通学、通院）

買物：週2～3日が4割を占め、**非運転者は外出頻度が少ない人の割合が増える。**

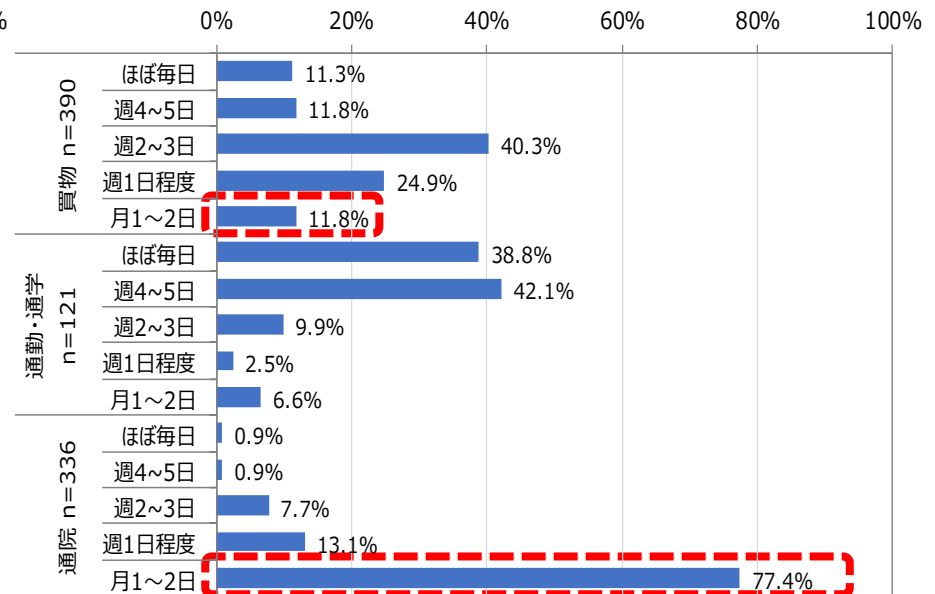
通勤・通学：頻度の多い移動であり、**ほぼ毎日・週4～5日が9割**を占める。

通院：月1～2日が8割を占め、**高齢者が7割を占める非運転者でも月1～2日が多くを占める。**

▼外出目的別の移動頻度（全回答者）



▼外出目的別の移動頻度（非運転者）

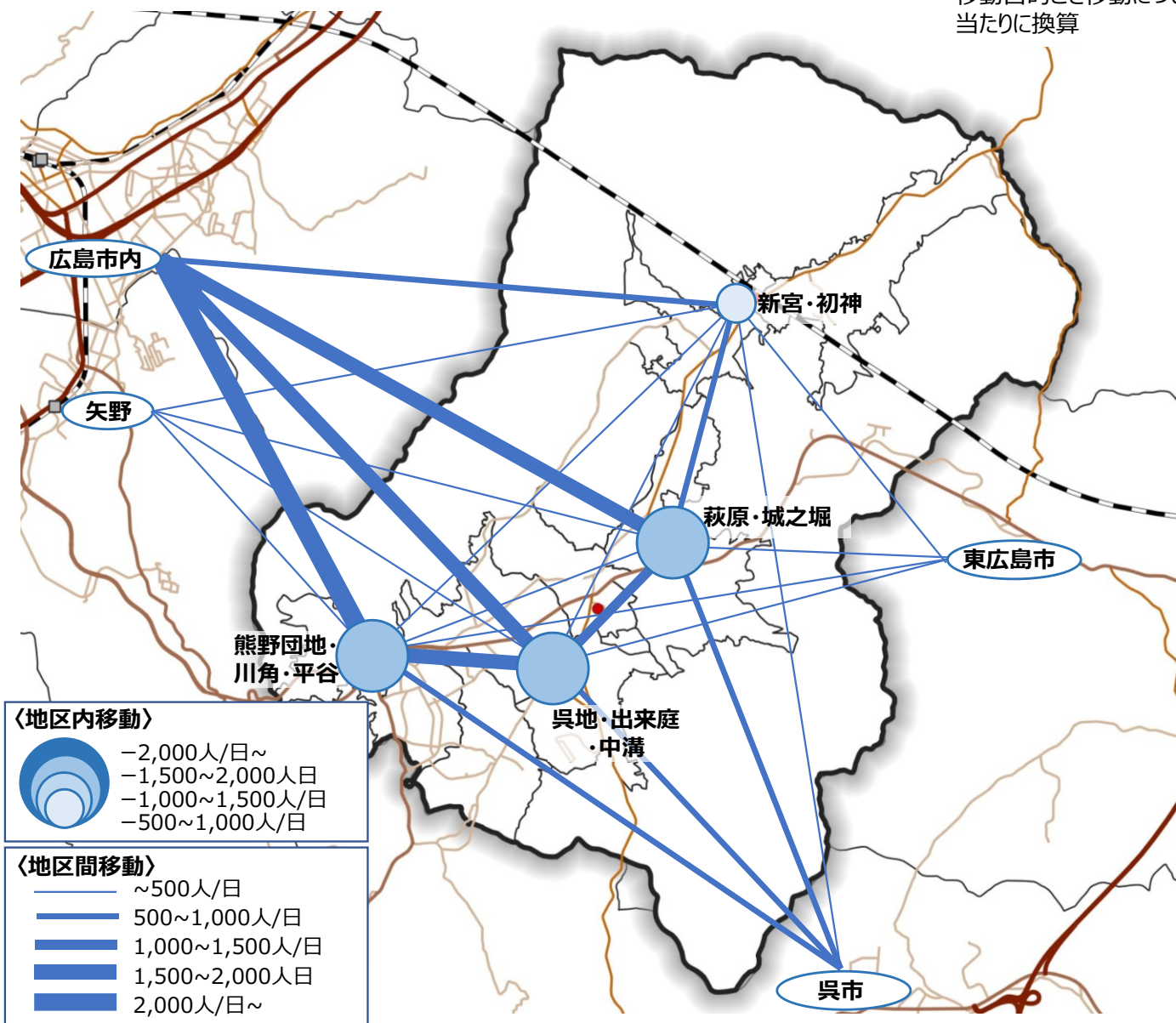


2. 日常の外出状況

【参考】1日当たりの移動量

〈全目的〉

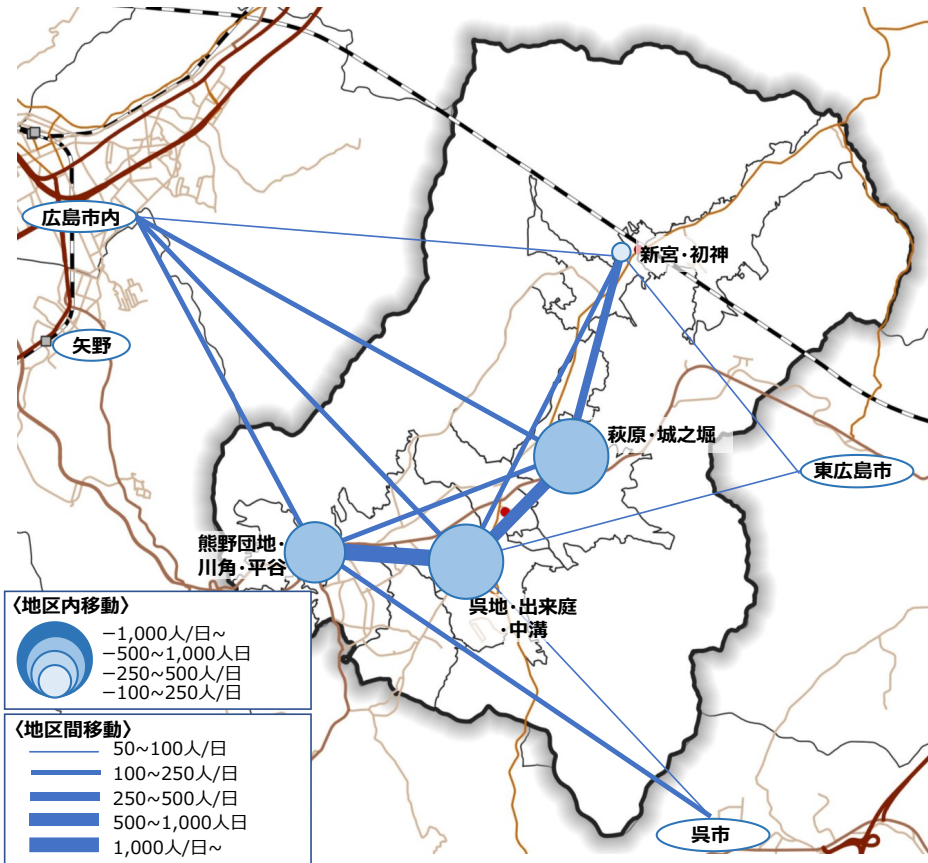
- ※ 1日当たりの移動量の算出
- 地区別性年齢別の回答数を実人口に換算
- 移動目的ごと移動について、移動頻度から1日当たり換算



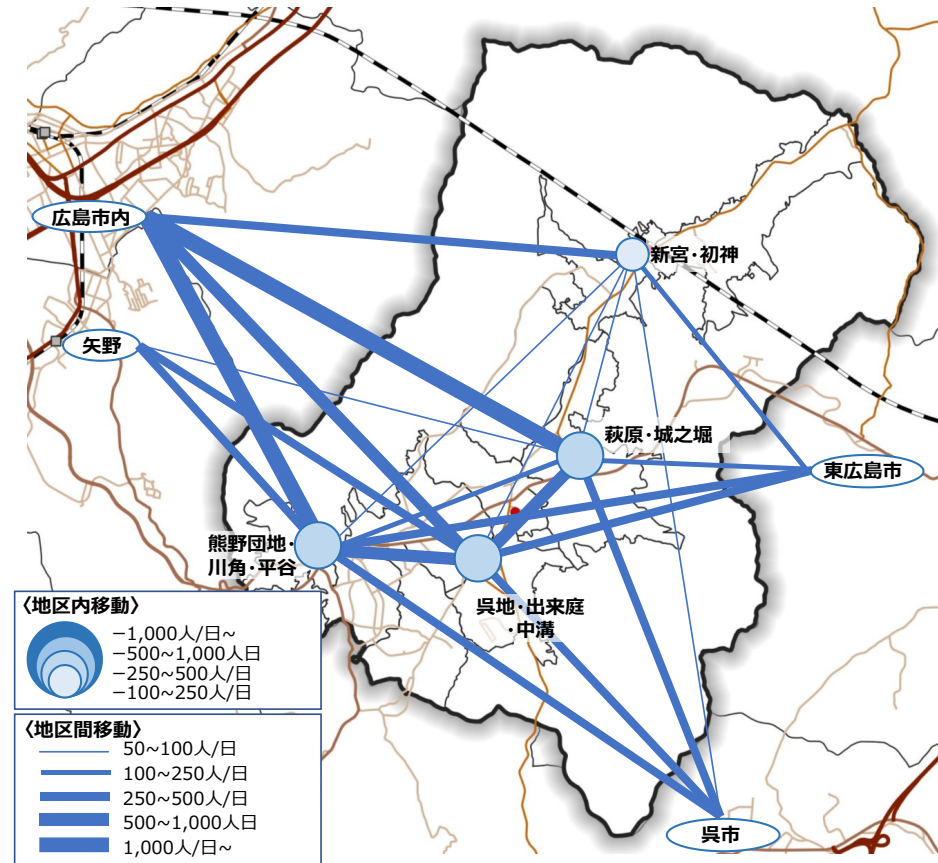
2. 日常の外出状況

【参考】1日当たりの移動量

〈買物〉



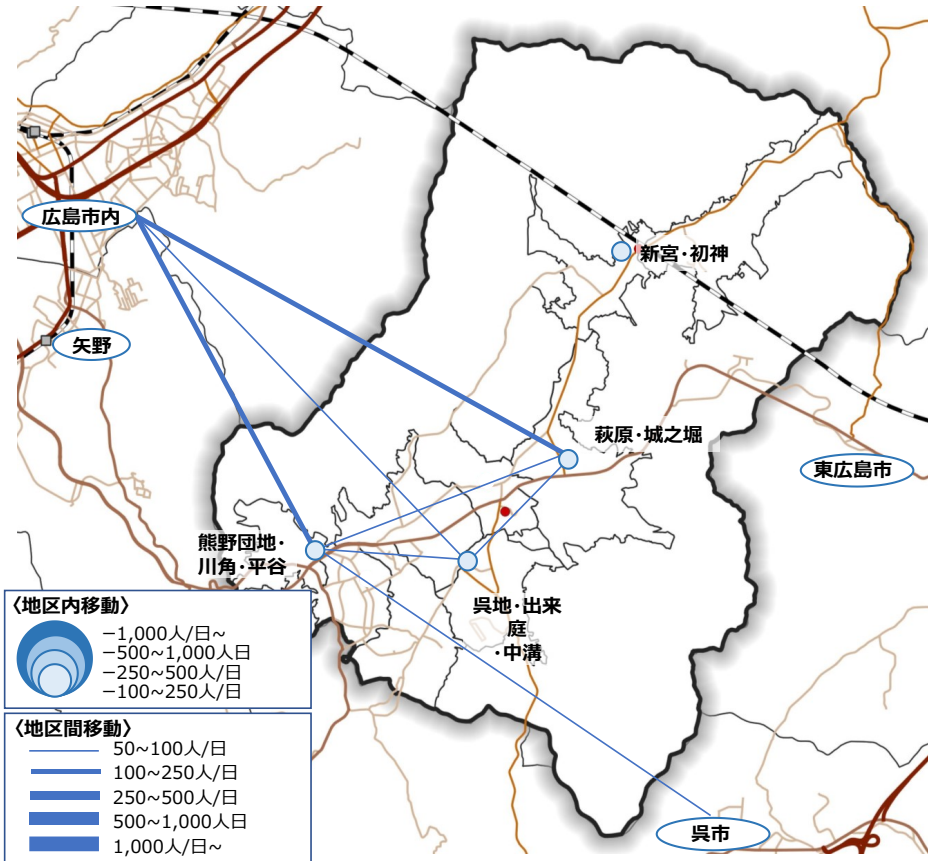
〈通勤・通学〉



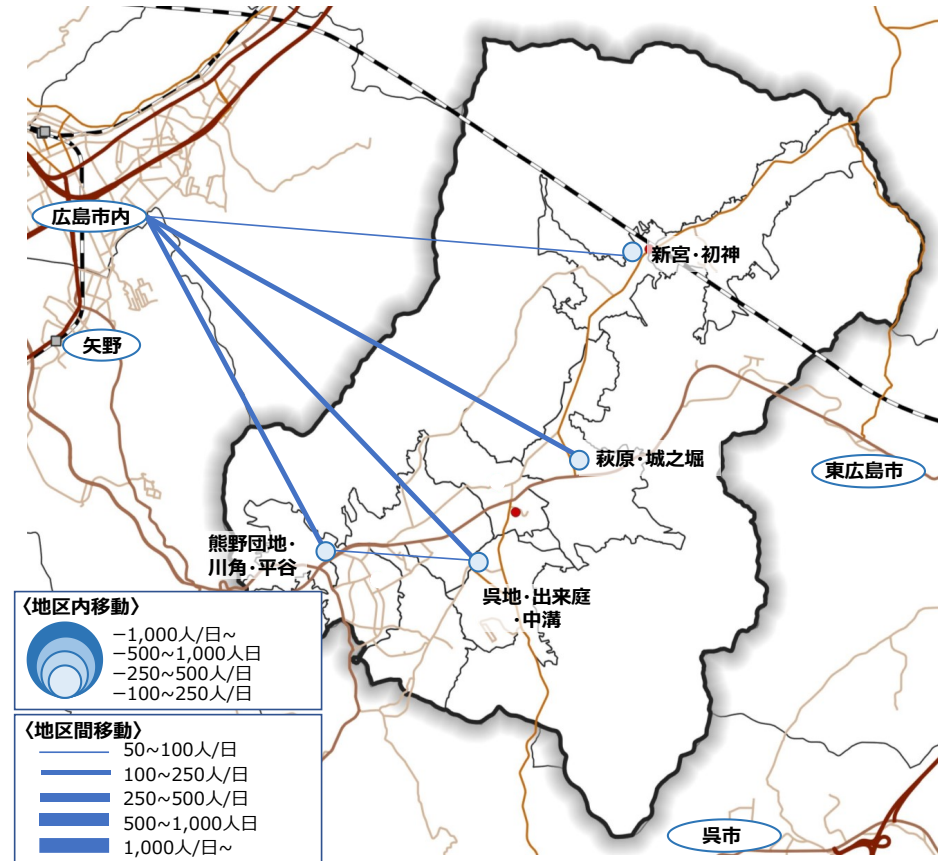
2. 日常の外出状況

【参考】1日当たりの移動量

〈通院〉



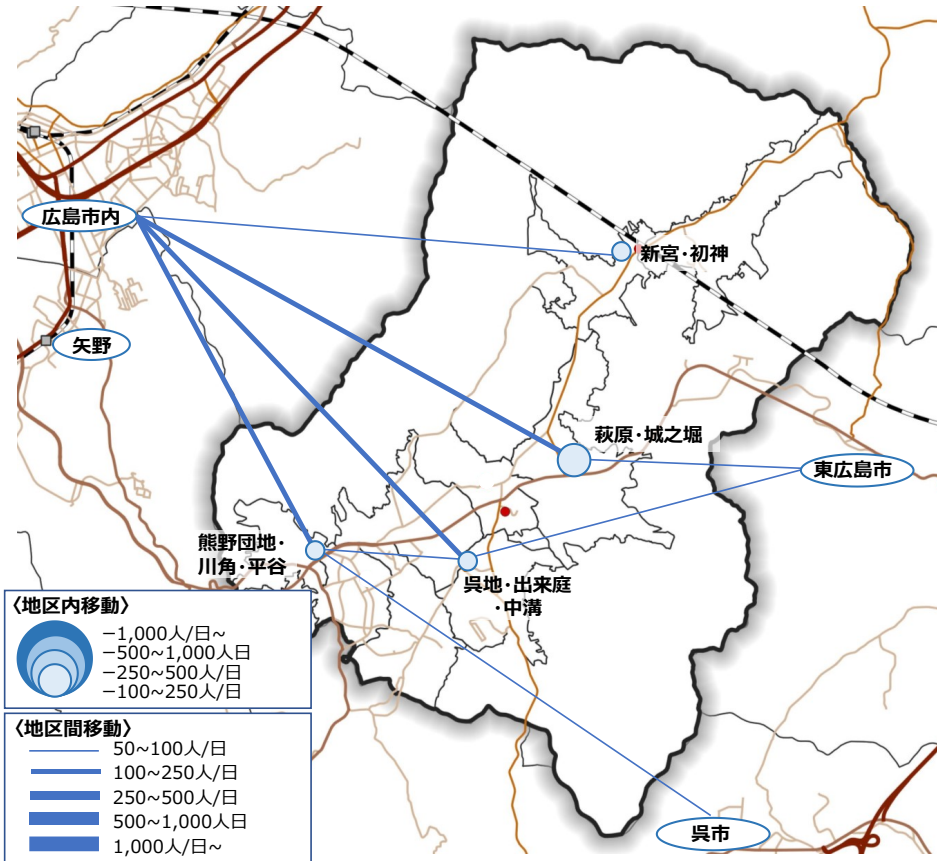
〈飲食〉



2. 日常の外出状況

【参考】1日当たりの移動量

〈娯楽〉



2. 日常の外出状況

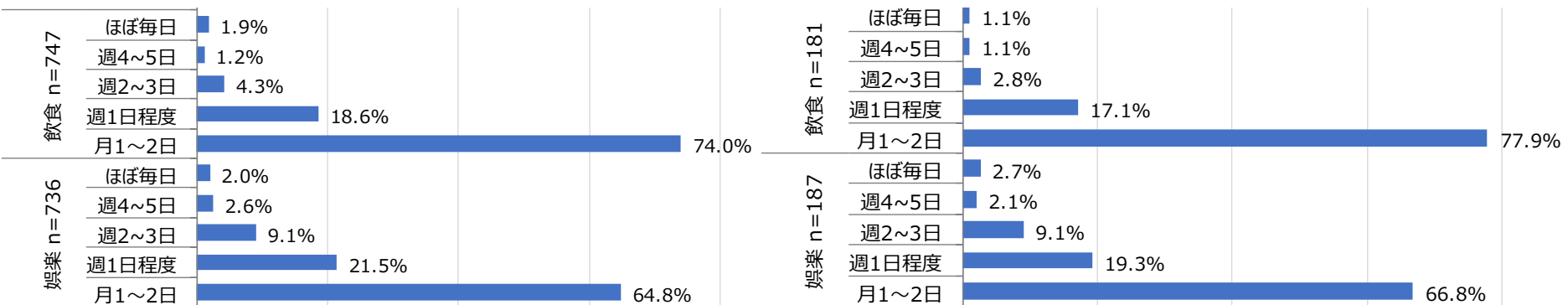
2) 外出の頻度（飲食、娯楽）

飲食：月1～2日が約7割で、比較的頻度の低い移動である。

娯楽：月1～2日が約6割で、比較的頻度の低い移動である。

▼外出目的別の移動頻度（全回答者）

▼外出目的別の移動頻度（非運転者）



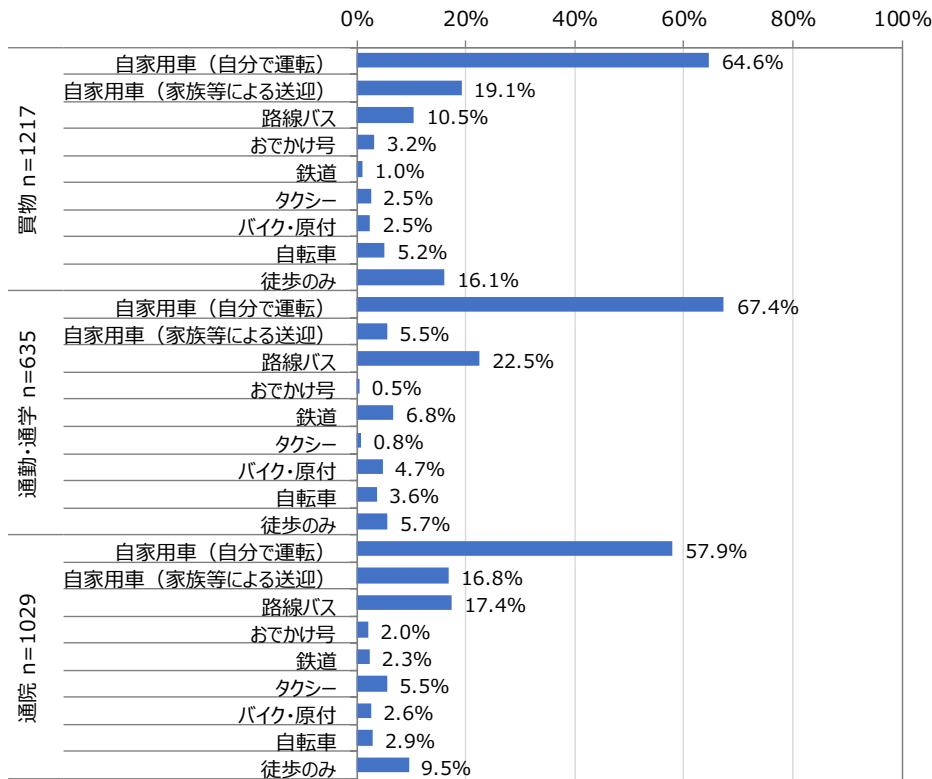
2. 日常の外出状況

3) 外出の移動手段（買物、通勤・通学、通院）

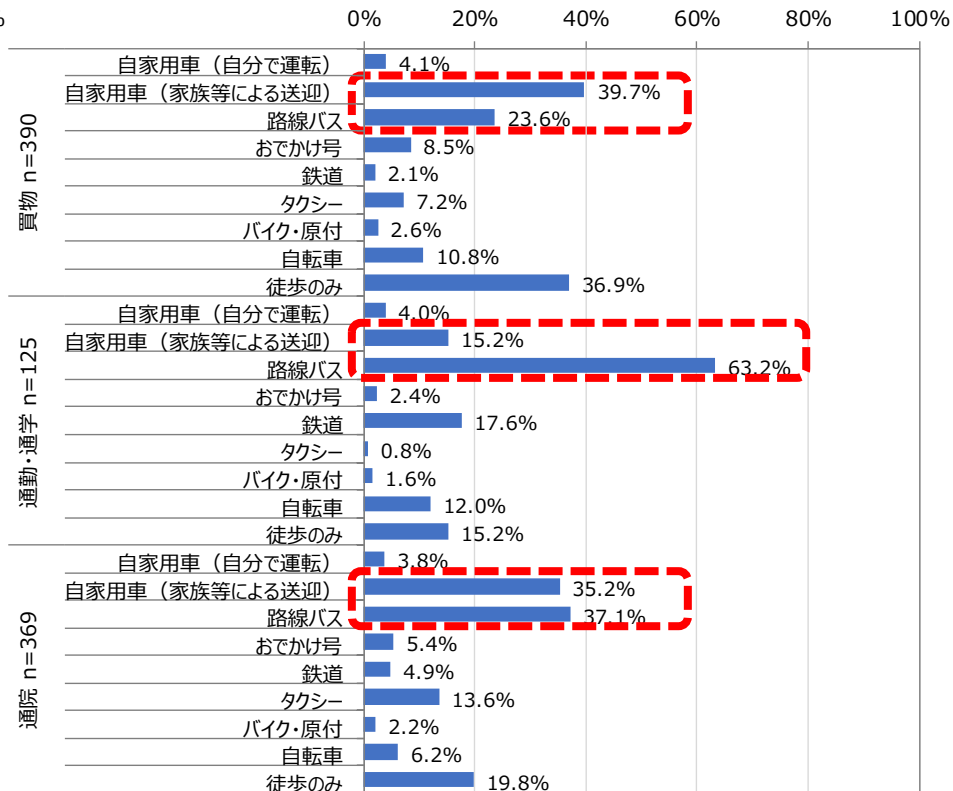
全目的共通：

- ・全体的に自家用車（自分で運転）が6～7割を占める。
- ・一方で、**非運転者は送迎や路線バスに頼る**傾向が強く、**通勤・通学では路線バスが6割**を占める。

▼外出目的別の移動手段（全回答者）



▼外出目的別の移動手段（非運転者）



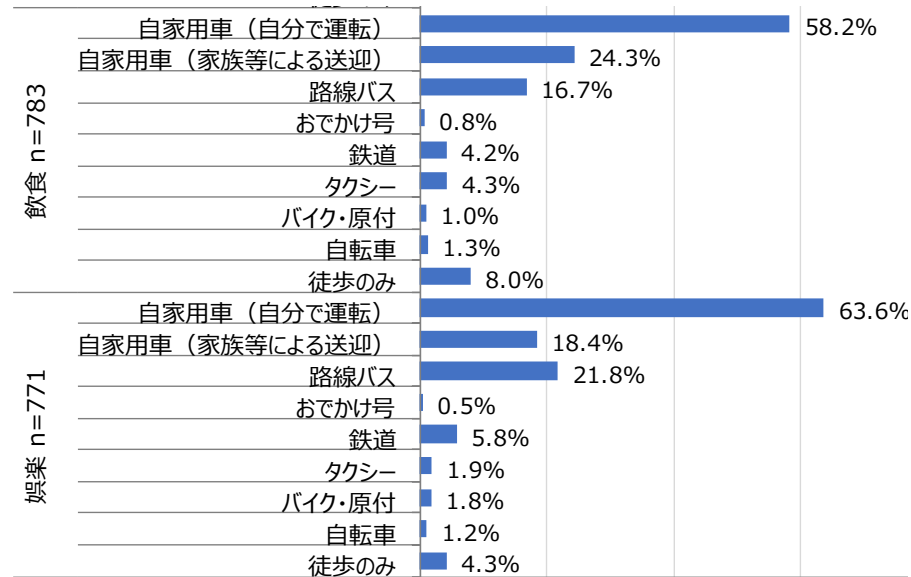
2. 日常の外出状況

3) 移動実態・外出の移動手段（飲食、娯楽）

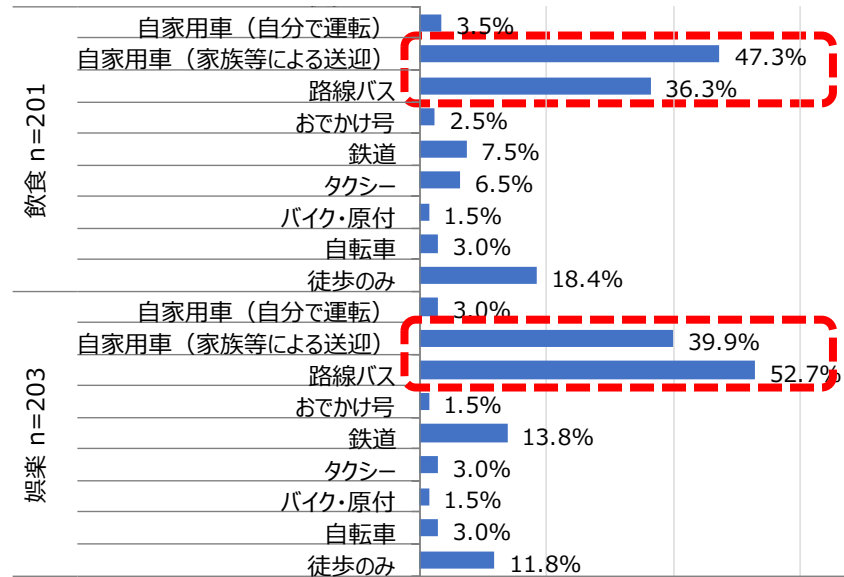
全目的共通：

- ・全体的に自家用車（自分で運転）が6～7割を占める。
- ・一方で、**非運転者は送迎や路線バスに頼る**傾向が強く、**通勤・通学では路線バスが6割**を占める。

▼外出目的別の移動手段（全回答者）



▼外出目的別の移動手段（非運転者）



2. 日常の外出状況

4) 外出の時間帯 (全回答者)

行き：通勤・通学は8時以前に集中し、その他の目的も主に午前中の**出発が多く**を占める。

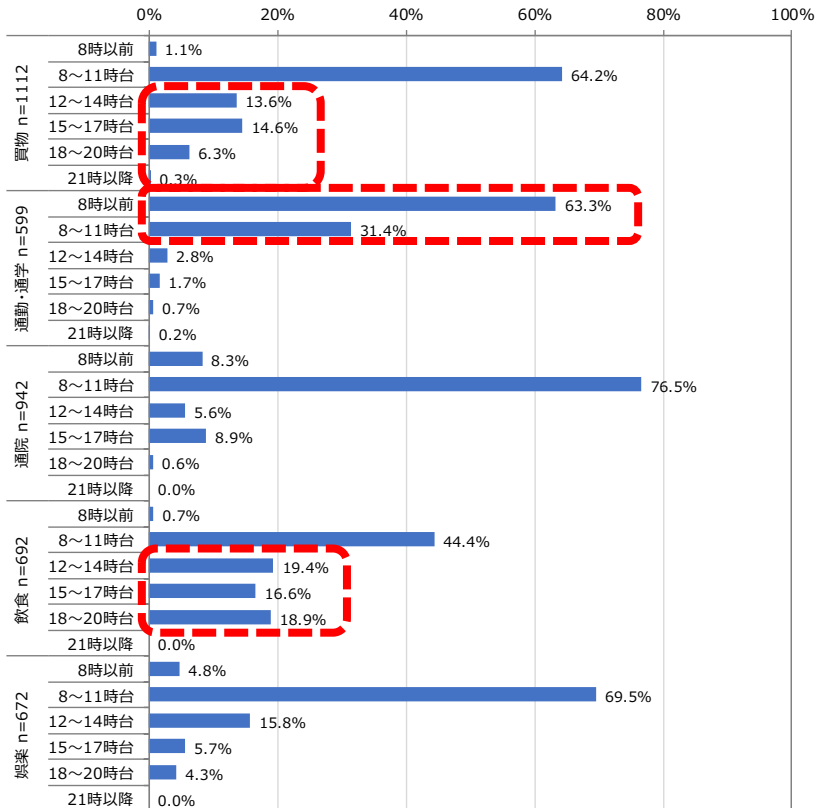
買物、飲食は午後にも分散している。

帰り：買物、通院は午前・午後の両方に分散しており、昼を跨いだ移動が伺える。

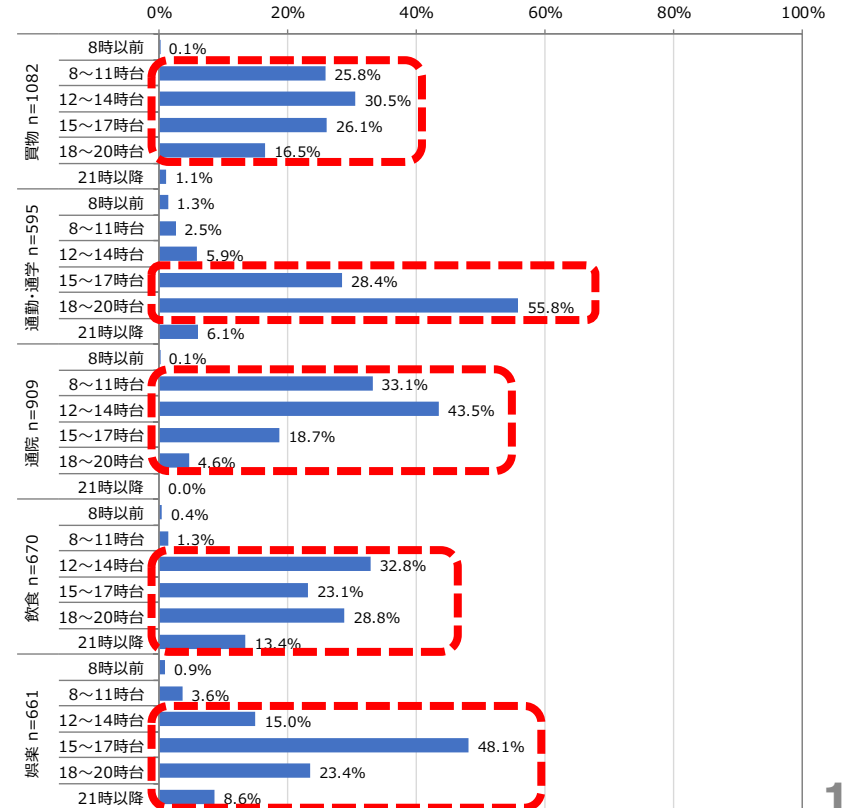
通勤・通学、飲食、娯楽は午後が中心となっている。

※全回答者、非運転者で大きな違いはない

▼外出目的別の移動時間帯 (行き)



▼外出目的別の移動時間帯 (帰り)



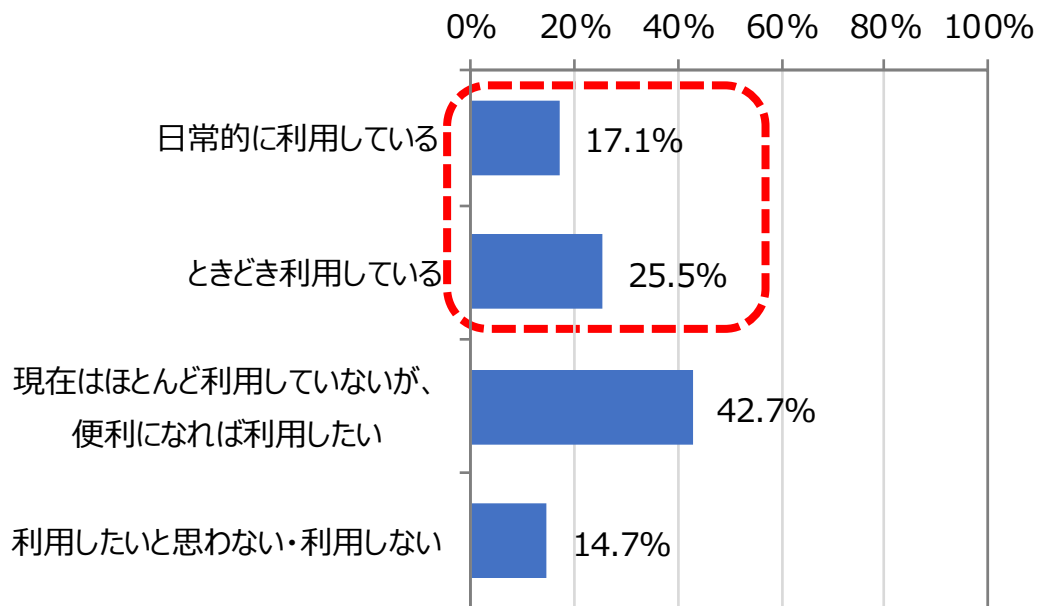
3. 普段の公共交通の利用状況

1) 利用頻度・利用する公共交通

利用頻度：約4割の回答者が公共交通を利用している。（日常的に利用している人・ときどき利用している人）

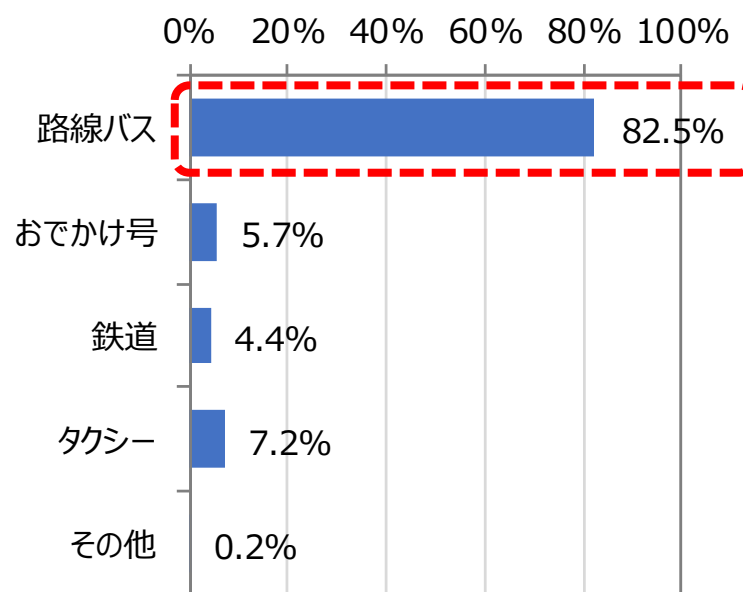
利用する公共交通：大半が路線バスの利用者である。

▼公共交通の利用頻度



N=1246

▼利用する公共交通



N=457

3. 普段の公共交通の利用状況

2) 公共交通を利用する理由（便利に感じている点）

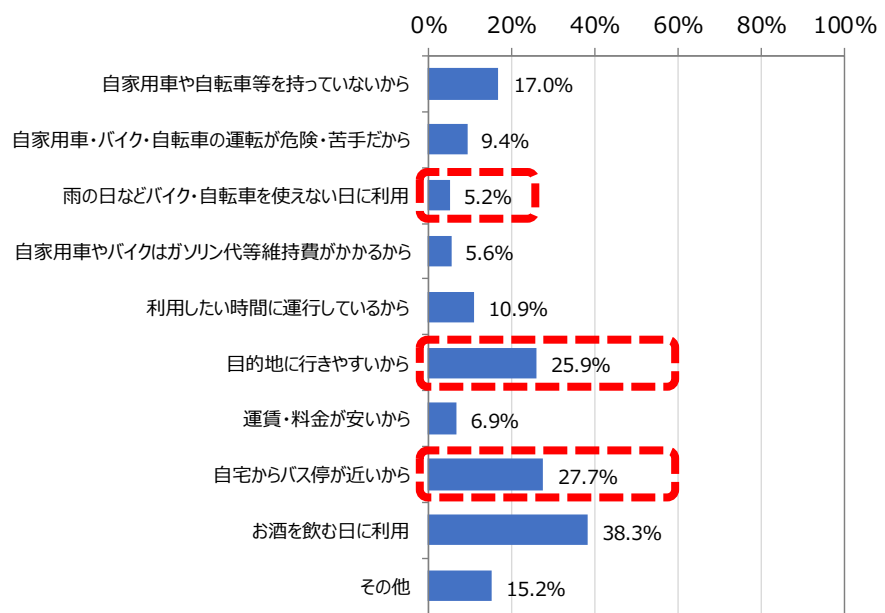
全回答者：『お酒を飲む日に利用』が最も多く、約4割を占める。

『自宅からバス停が近いから』、『目的地に行きやすいから』が上位にあり、バス停が家の近くにある人にとっては目的地に行きやすい公共交通が提供されていることが伺える。

非運転者：『自家用車等を保有していないから』が上位にある。

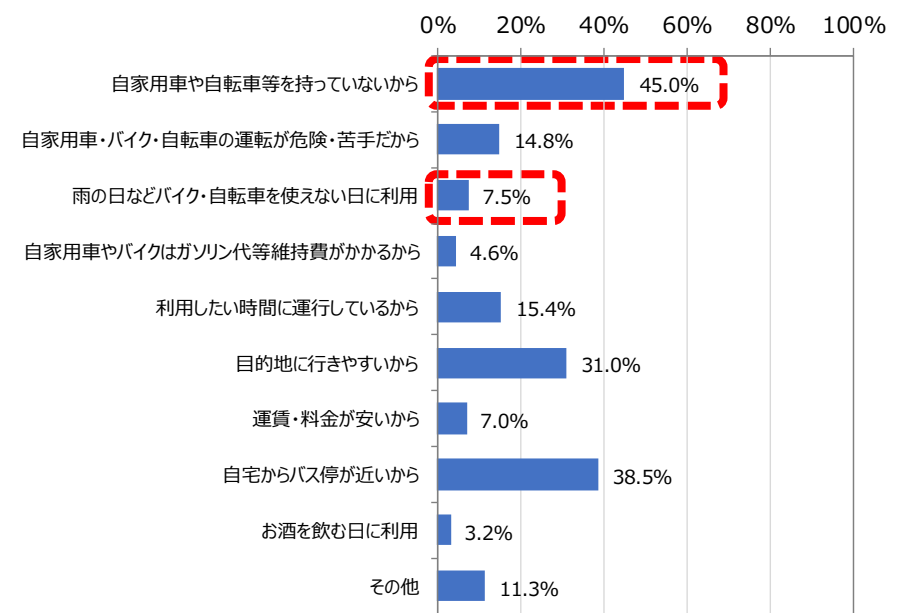
共通：雨の日など天候を理由とする公共交通利用は多くない。

▼公共交通を利用する理由（全回答者）



N=1056

▼公共交通を利用理由（非運転者）



N=371

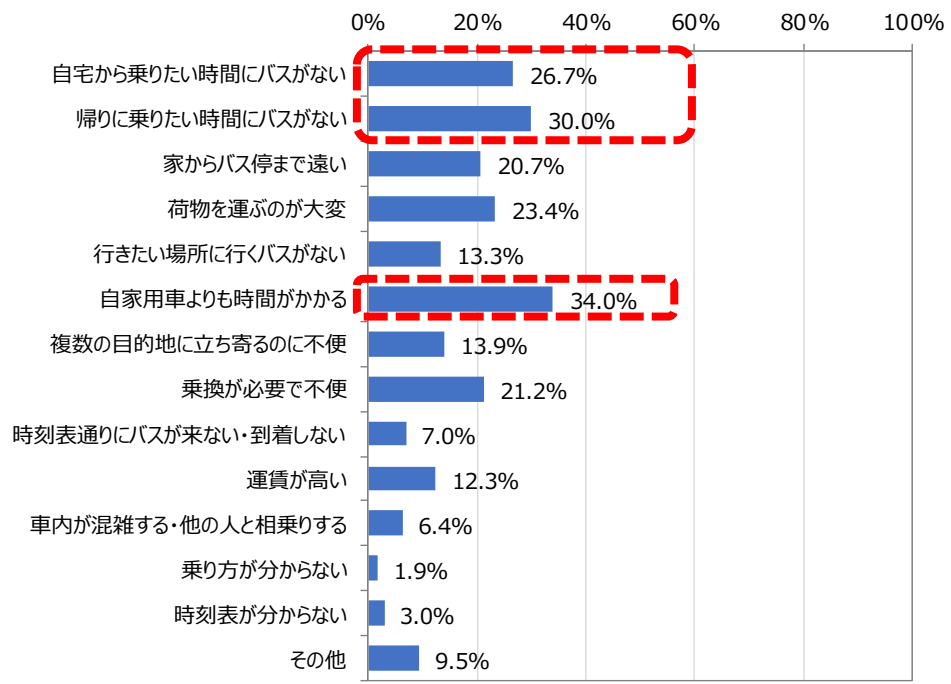
3. 普段の公共交通の利用状況

3) 移動実態・公共交通を利用しない理由（不便に感じている点）

全回答者：『乗りたい時間にバスがない』、『自家用車より時間がかかる』といった“時間”に関わる不便さを感じている。

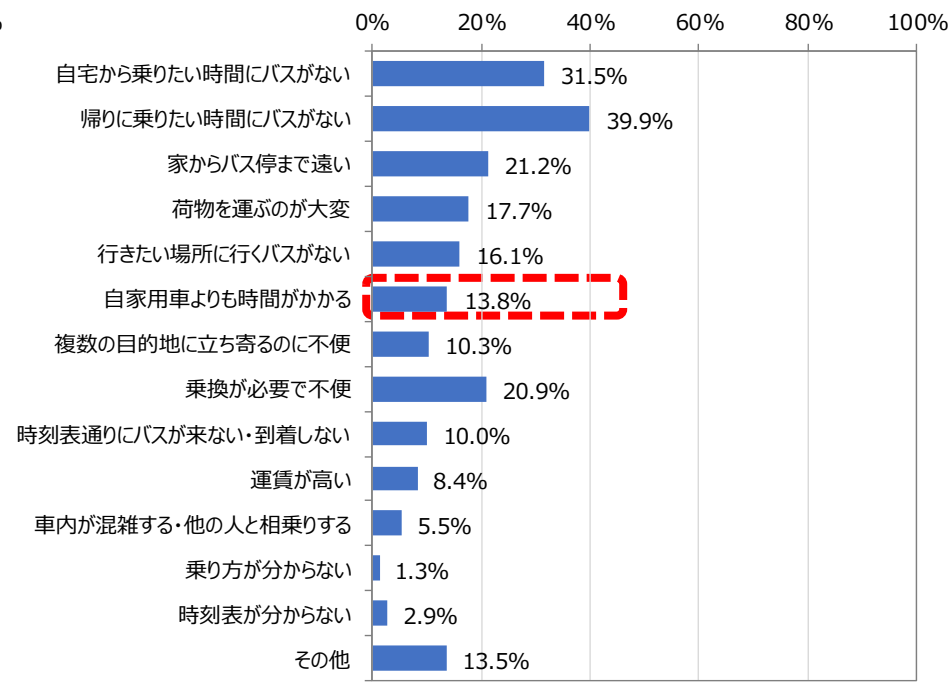
非運転者：全回答者に比べて、『時間がかかること』を許容する傾向にある。

▼公共交通を利用しない理由（全回答者）



N=1061

▼公共交通を利用しない理由（非運転者）



N=311

4. 今後の公共交通について

1) 取り入れてほしい施策や取組【増便/時間短縮する直行バス】

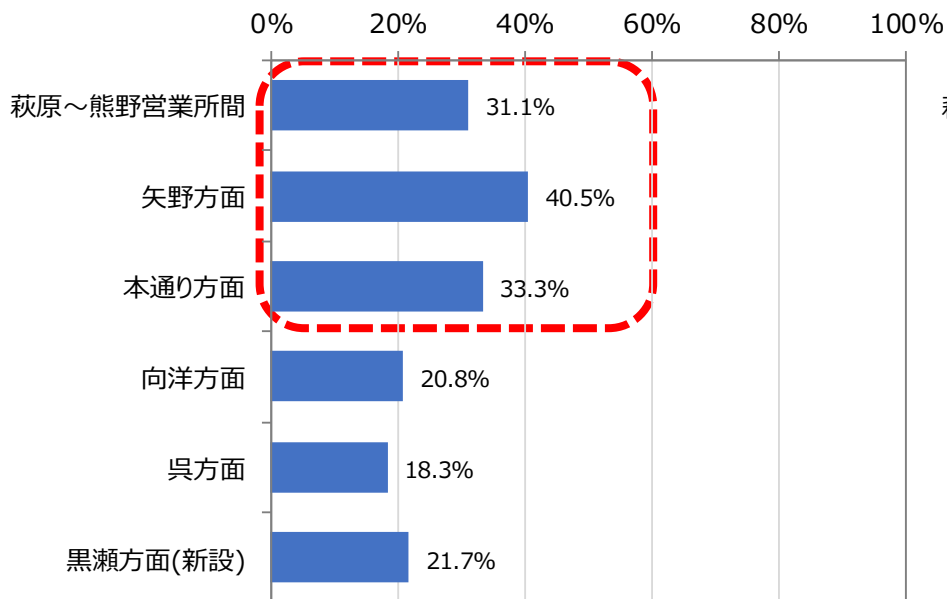
増便： 矢野方面、本通り方面のほか、萩原～熊野営業所間の増便を望む声も多い。

広島市内の中でも、向洋方面よりも本通り方面が多い。

呉方面へのニーズが少なく、現状の運行本数で概ねニーズを満たしていることが伺える。

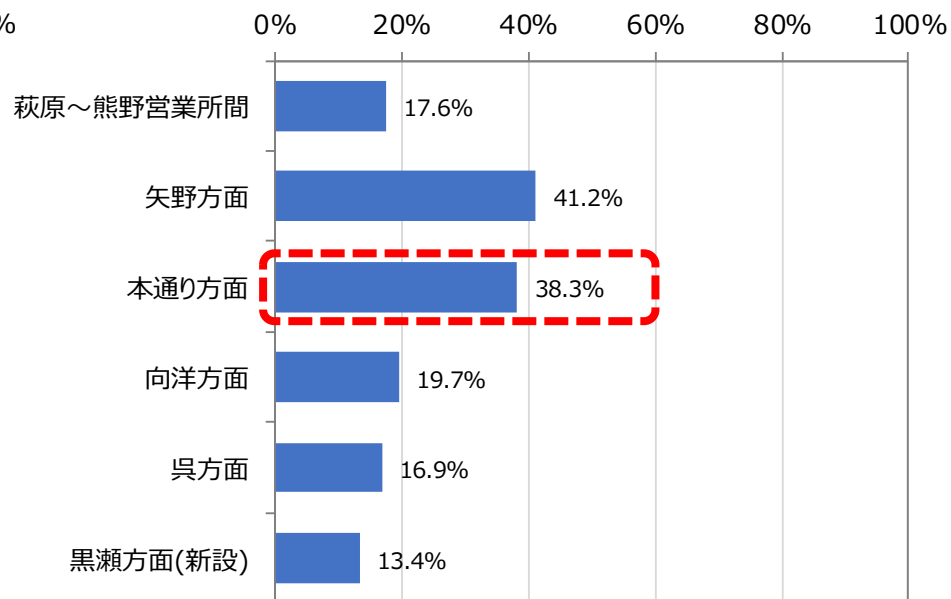
直行バス： 増便ニーズの多い、矢野・本通り方面へのニーズが多く、本通り方面へは増便よりも時間短縮を望む声が多い。

▼増便の希望方面



N=984

▼直行バスの希望方面



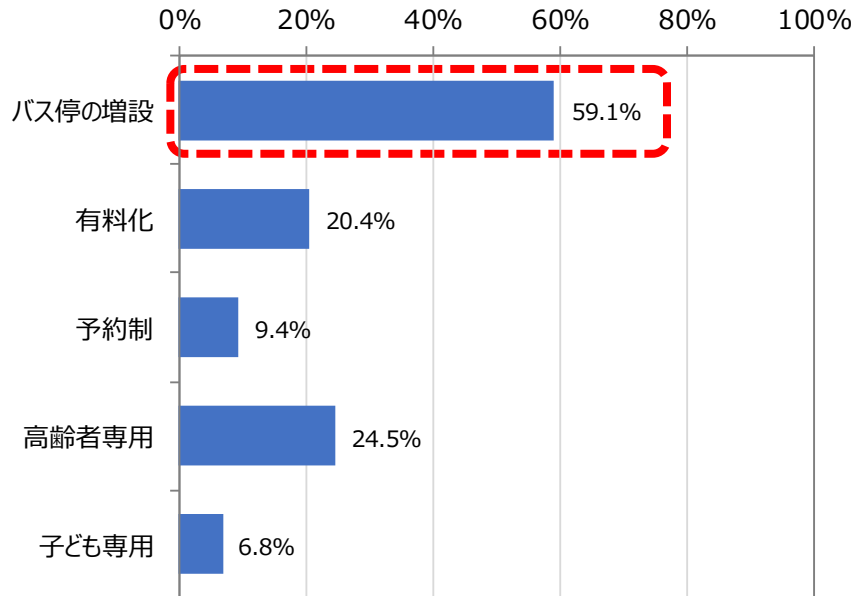
N=885

4. 今後の公共交通について

3) 取り入れてほしい施策や取組【おでかけ号の充実】

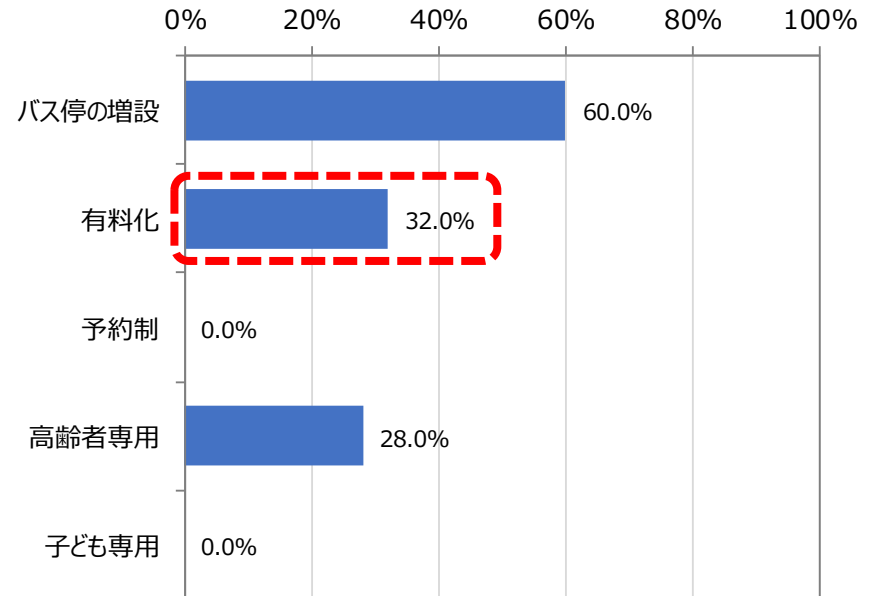
・バス停の増設を望む声が最も多い中で、現在のおでかけ号利用者であっても『有料化』を望む声が見られる。

▼おでかけ号の充実（全回答者）



N=690

▼おでかけ号の充実（おでかけ号利用者）



N=25

4. 今後の公共交通について

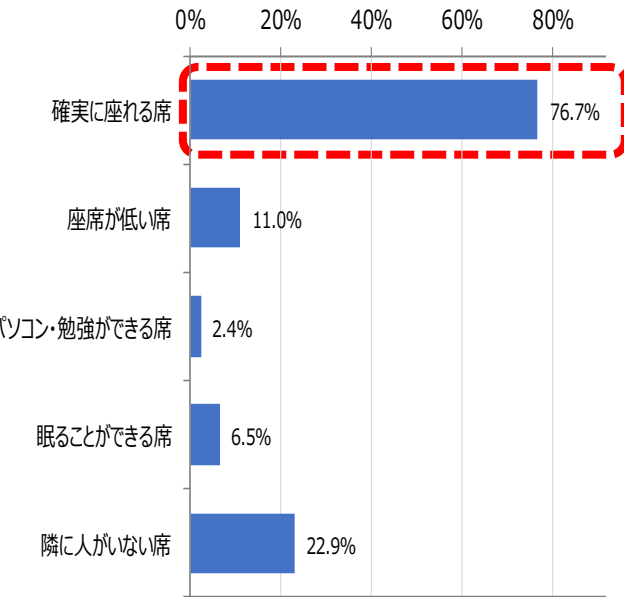
4) 取り入れてほしい施策や取組【バスの座席/時刻表/運賃】

バスの座席：確実に座れる席が最も多く、8割を占める。その他のニーズはあまり高くない。

バスの時刻表：熊野営業所や矢野駅が乗換拠点となっているため、『乗換が便利な時刻表』を望む声が多い。

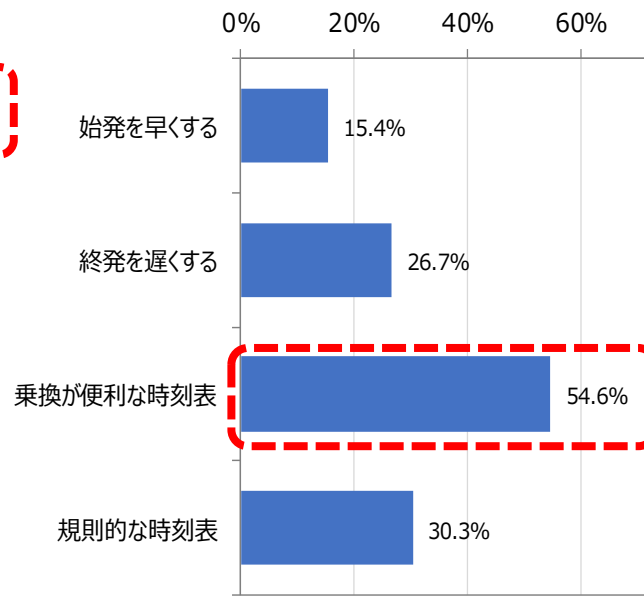
バスの運賃：高齢者割引、町内均一、運賃の値下げのニーズが高い。（高齢者の回答が多いことに留意）

▼バスの座席



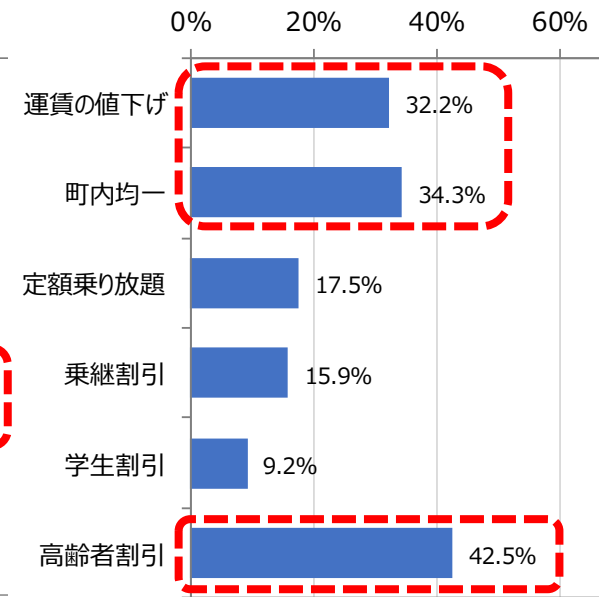
N=798

▼バスの時刻表



N=862

▼バスの運賃



N=952

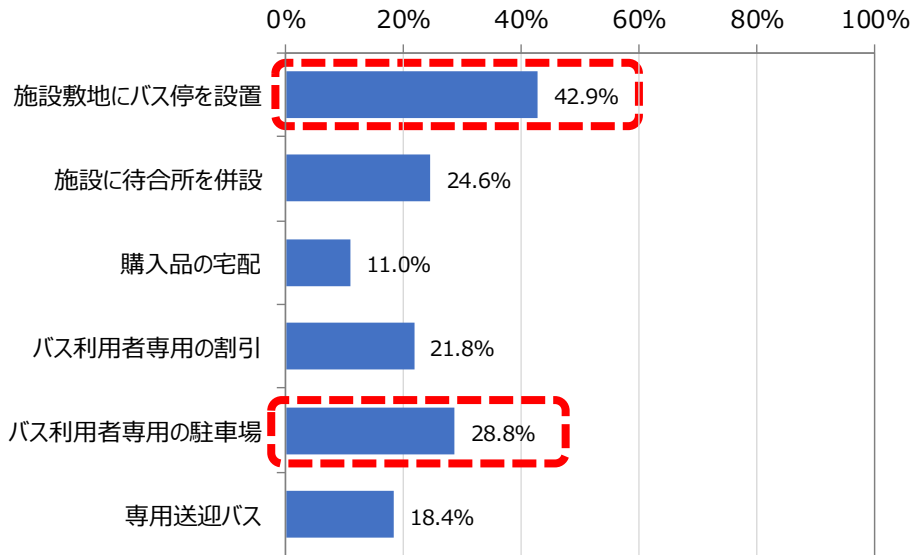
4. 今後の公共交通について

5) 取り入れてほしい施策や取組【商業施設・病院との連携】

商業施設・病院との連携：『施設敷地内にバス停を設置』、『バス利用者専用の駐車場』など、目的地となる施設との連携が望まれている。

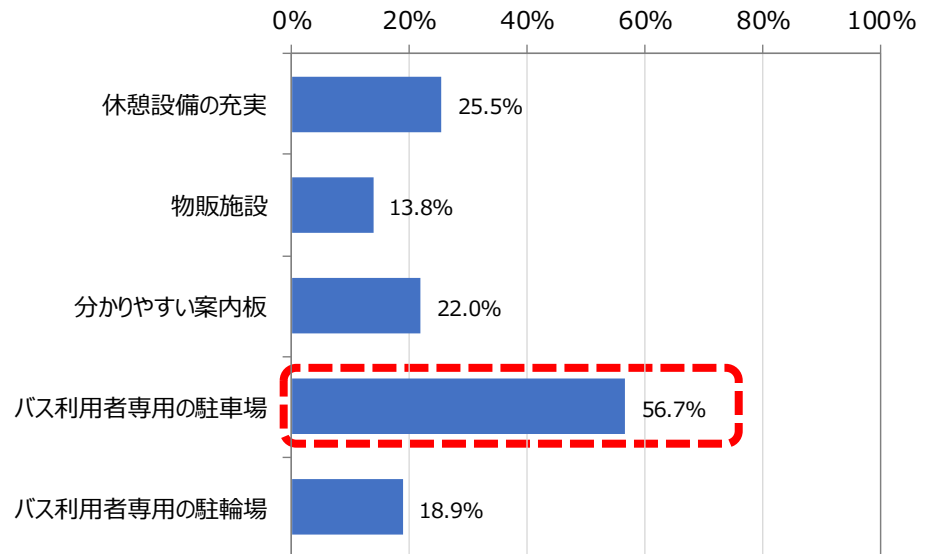
熊野営業所の施設・機能：以前整備されていた『バス利用者専用の駐車場』のニーズが高い。

▼商業施設・病院との連携



N=800

▼熊野営業所の施設・機能



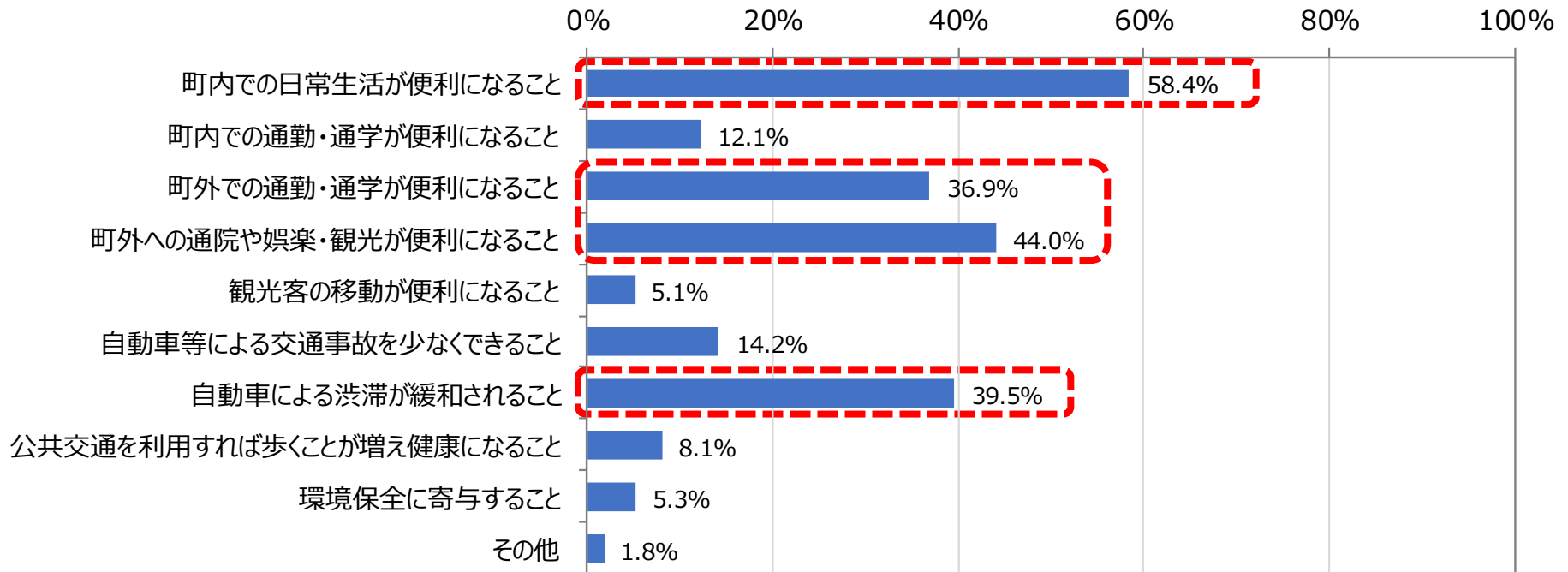
N=842

4. 今後の公共交通について

6) 今後の公共交通が担う役割

- ・町内での日常生活が便利になることを希望する人が最も多く、約6割を占める。
- ・その他では、町外への通院や娯楽・観光、通勤・通学といった町外との交流が多い熊野町の暮らしや、幹線道路における渋滞の緩和といった熊野町の交通課題の解消を期待する声が多い。

▼公共交通が担う役割

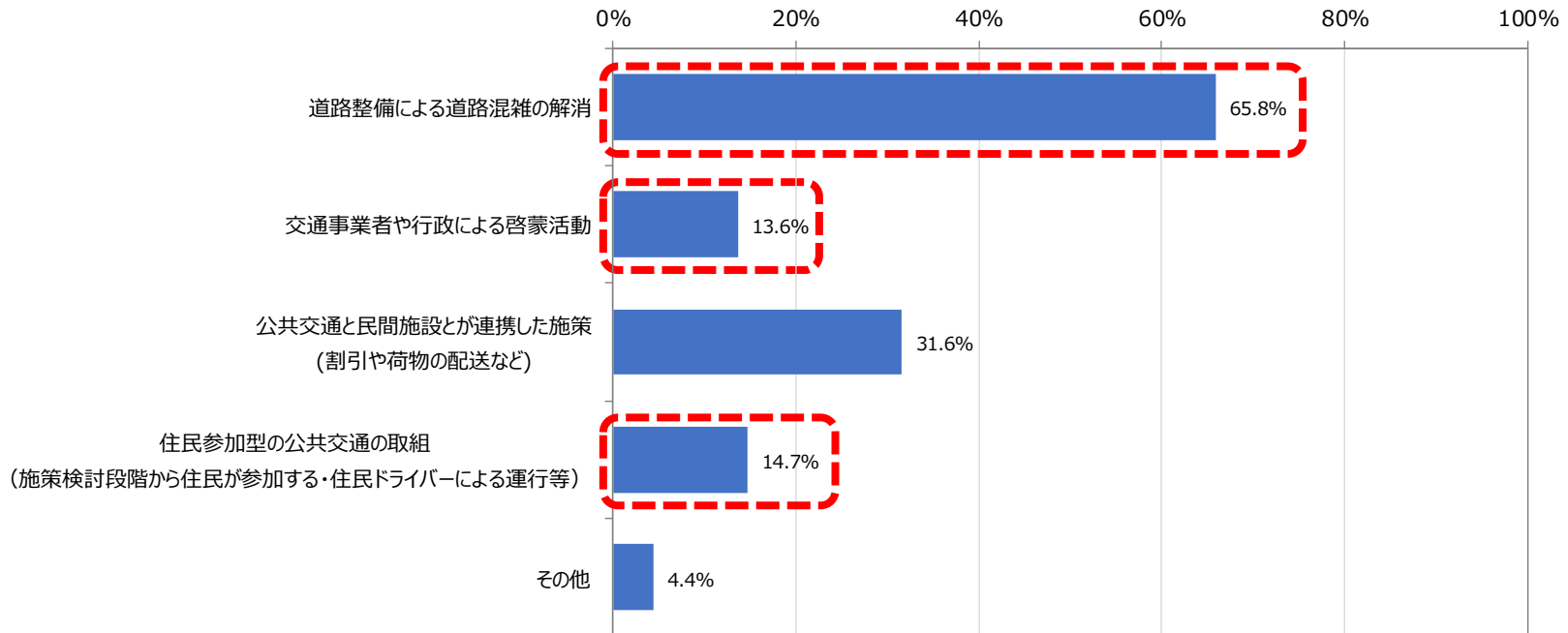


4. 今後の公共交通について

7) 公共交通を便利にするために必要な取組

- ・道路整備による道路混雑の解消が必要だと思う人が最も多く、6割を超える。
- ・『公共交通と民間施設が連携した施策』や『住民参加型の公共交通の取組』が必要だと回答も見られ、交通事業者や行政だけに頼らない公共交通が必要であると考えていることが伺える。

▼公共交通を便利にするために必要な取組

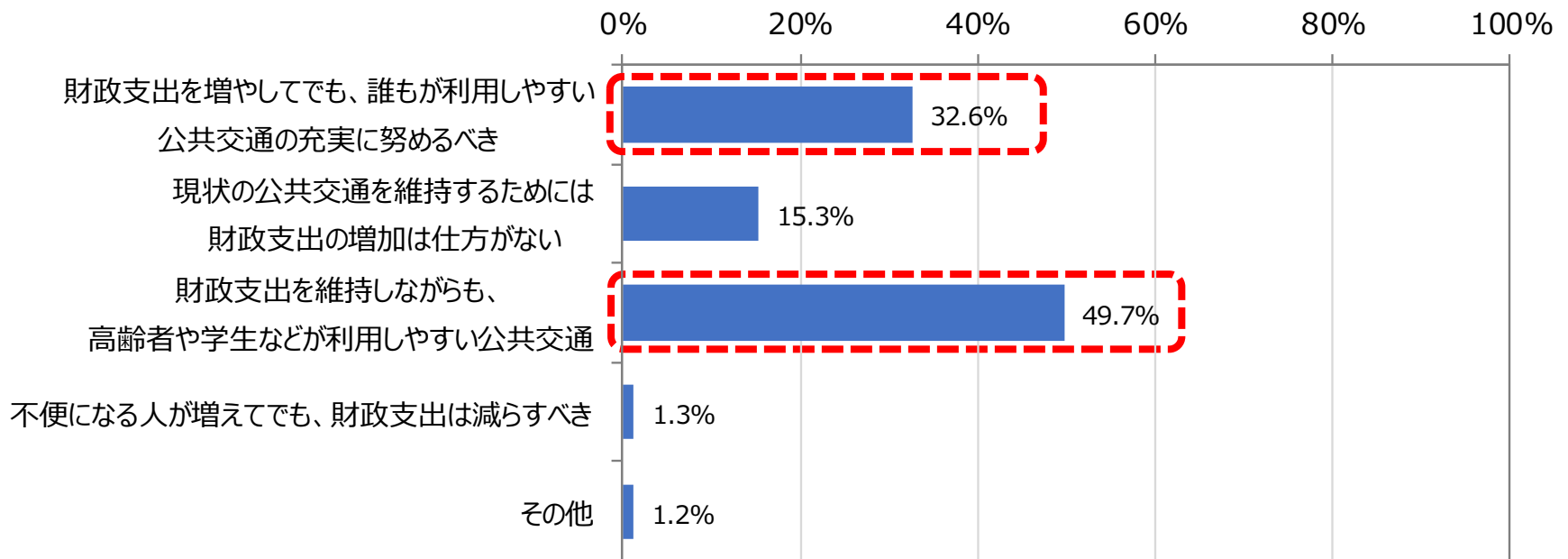


4. 今後の公共交通について

11) 行政の財政支出と交通サービス

・『財政支出を維持しながらも、高齢者や学生などが利用しやすい公共交通』、『財政支出を増やしてでも、誰もが利用しやすい公共交通の充実に努めるべき』の割合が多く、**若干の財政支出増加を許容しつつも、公共交通の充実に求める意見が多い。**

▼行政の支出と交通サービスについて



N=1111